

科目名 (Eng)	日本事情(Japanese Culture and Society)								
担当教員	畑 薫里								
対象学年等	学科・学年	授業期間・区分・単位数・時間数			分野	形態	学修単位科目		
	留学生特設一般科目 4	後期	必修	1	(30)	一般	C		
目標基準との対応	福島高専の教育目標との対応：(A-3).								
	修了時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：1).								
JABEE基準1(1)との対応：(a).									
授業の概要と方針	国際化社会に生きる現代の日本人が、なお変わらず持つ、日本人独特のものの見方・価値観を学び、また現代の世相を探ることで日本社会を理解する一助とする。								
到達目標	①日本社会で円滑な人間関係を築くために必要な日本人の生活や考え方についての理解を深める。・ ②日本に住む外国人としてより望ましい共生について考えていく。								
授業計画									
	週	授業項目	理解すべき内容			事前学習			
後期	16	日本文化(1)	あいづちをうつ・縁起をかつぐ						
	17	日本文化(2)	心のものさし～「間」と「分」			前回のプリントの復習			
	18	日本文化(3)	「お金」に関して			前回のプリントの復習			
	19	データから見る日本(1)	若者の戦争観について			読めない漢字の確認			
	20	データから見る日本(2)	現代の結婚観について			読めない漢字の確認			
	21	データから見る日本(3)	シングルファーザーの実態			読めない漢字の確認			
	22	データから見る日本(4)	人口問題～少子化の現実			読めない漢字の確認			
	23	データから見る日本(5)	人口問題～高齢化の現実			読めない漢字の確認			
	24	日本の教育(1)	偏差値教育・受験・塾			わからない言葉の確認			
	25	日本の教育(2)	不登校・いじめ・フリースクール			わからない言葉の確認			
	26	日本の教育(3)	大学教育について			わからない言葉の確認			
	27	課題作文				前回までの内容の確認			
	28	まとめテスト							
	29	日本人の生活(1)	川柳から見る「庶民」の生活と本音(1)						
30	日本人の生活(2)	川柳から見る「庶民」の生活と本音(2)							
試験について	中間試験も期末試験も実施しない。								
評価方法	まとめテストの成績を70%、課題を30%として総合的に評価する。								
教科書	プリント配布								
参考書	「日本を話そう」、日鉄ヒューマンデベロップメント/日本外国語専門学校、「日本への招待」、東京大学AIKOM 日本語プログラム、東京大学出版会、日本語ジャーナル、アルク								
関連科目									
履修上の注意	毎日の生活の中で、常に自分や母国と比較しながら、その違いや背景にあるものを理解しようとする学習態度が必要。								